

2026年度

学校説明会資料



明治大学付属



明治中学校



明治高等学校

第一級の人物たれ ―グローバル社会で活躍できる人材の育成―	1
第1章 Only one の大学付属校を目指して	2
【1】「第一級の人物」を目指して	2
【2】伝統の継承と「教育改革」	2
【3】鵜澤総明教育振興・奨学金	2
【4】調布キャンパスの基礎情報	3
第2章 本校の教育	7
【1】基礎教育の徹底	7
【2】実践的教育の強化	7
【3】高大連携の推進	9
第3章 学習指導 ― 基礎学力の保障と思考力・表現力の育成	11
【1】週6日制授業	11
【2】試験制度と評価	11
【3】進級と進学	11
【4】班・部活動との両立	11
【5】各教科の特色	12
【6】英語教育 ―Communicative English を目指して―	12
第4章 学校生活 ― ルールを守り、「独立自治」を育む	15
【1】学校行事	15
【2】生活指導と学習指導	16
【3】クラス編成 高校	16
【4】クラブ活動	16
第5章 進路指導 ― 志望学部進学を目指して	20
第6章 入学試験 ― 学校のもうひとつの顔	21
I 中学校	
【1】2026 年度中学入学試験の概況	21
【2】2027 年度中学入試の出題方針	24
【3】各教科の勉強方法	25
【4】2027 年度中学入試のポイント	25
II 高等学校	
【1】2026 年度高校入試の概況	27
【2】2027 年度高校入試の出題方針	30
【3】各教科の勉強方法	31
【4】合否判定と推薦出願基準について	31
【5】2027 年度高校入試のポイント	32
第7章 本校をもっと知っていただくために ― 将来を一緒に考える学校	34
【1】こんなご心配はありませんか？	34

第一級の人物たれ ―グローバル社会で活躍できる人材の育成―

校長 井家上 哲史

本校は、1912年に旧制明治中学として創立されました。初代校長の鶴澤総明は、当時の生徒たちに「第一級の人物たれ」と語りかけました。一世紀前の社会と現代とは学校や教育を取り巻く環境は大きく異なります。この110年余りの間に起こったもっとも大きな変化は、地球空間の時間的縮小です。交通機関や情報伝達手段の発達により、これまで何日も要していたものが、瞬時に接することのできるような時間距離になりました。遠い外国で発生した出来事をインターネット等を介してほぼ同時刻に見聞きすることができます。私たちの生活は否が応でもグローバル化しているのです。

こうした時代に活躍する人材が備えるべき資質は何でしょうか。私は、アメリカの大学での在外研究や国際協力の一環として東南アジア諸国の大学での教鞭を通じて、国際社会で活躍するためには、何をどのように観察して問題を発見するのか、その問題の経緯や歴史を理解し、正確なデータを集めて分析、その結果をどのように表現し、相手を説得していくのかという能力の有無が問われることを学びました。もちろん、その際には国際共通言語として英語が求められます。つまり、「英語ができる＝グローバル人材」ではなく、相手が誰であろうと、相手が納得するレベルで説得することができるか否かがグローバル人材なのです。そのためにはコミュニケーションツールとしての言語の他に、徹底した基礎学力が必要ですし、その上に高度な専門性が求められるのです。

明治中学・明治高校は、明治大学直系の付属校です。一定基準を超えれば全員が、明治大学の各学部へ、しかもほぼ第一志望で進学できます。また、明治大学への推薦を確保しながら、国公立大学や条件付きながら私立大学を併願受験、進学することもできます。受験を心配する環境ではないために、受験科目としての「英語」ではなく、じっくりとコミュニケーションツールとしての“English”を学ぶことができます。また、文系理系へのクラス分けも高校3年からと遅く、文系でも、理数系の科目を勉強することになります。広汎な科目の履修が、大学進学後や卒業後の人生に大切だと考えています。

様々な形で行われている明治大学との高大連携講座では、専門性を理解するためにどのような基礎学力が必要か、高校での科目がどのように役立つのかを、大学教員によって徹底的に教育してもらえる環境を作っています。公認会計士や法曹資格などを学部在学中に多くの卒業生が取得しています。

直系付属校というこうした恵まれた教育資源や環境を通して、心身とも健全で優秀なグローバル人材を多く輩出することにより、世界に貢献できる「第一級の人物」を育成していく「名門校」でありたいと思っています。

第1章 Only one の大学付属校を目指して

本校は、多くの生徒が大学への受験勉強を必要としないため、中学・高校で身につけるべき基礎力を、時間をかけてしっかりと身につけることができます。これが、明治大学直系の付属校である本校最大のメリットだと考えています。

【1】「第一級の人物」を目指して

本校では、初代校長鵜澤総明が生徒に語り掛けた「第一級の人物たれ」という言葉を大切にしています。すなわち、学力のみならず、社会力や精神力も鍛え、周りから尊敬されるような立ち居振る舞いを身に付けてほしいと願っています。中学・高校時代には、今、何が問われているのかを思考し、自分の考えを他者に表現する力、自分を高めるために行動する力、基本的なマナー・ルールを大切にする力、困難を乗り越える力などを重視して教育しています。これらの力は、大学に進学し、社会に出た後も常に求められていきます。本校では、受験勉強に時間を割く必要がないというメリットを活かし、これらの力が身につくよう、時間をかけてじっくり指導しています。

【2】伝統の継承と「教育改革」

2008年4月、本校は調布キャンパスに移転・男女共学化しました。新校舎は「学習環境の整備」(Study)、「ゆとり空間の演出」(Space)、「スポーツ施設の充実」(Sports)の3つのSをコンセプトに設計され、付属校らしい学びの環境となっています。充実した施設・新しい校舎にとどまることなく、現在もまた、「基礎教育の徹底」「グローバル教育の強化」「高大連携の推進」「クラブ活動の活性化」に加え、さらに「一人ひとりを大切にした」教育を実現するため、さまざまな改革に取り組んでいます。

なお本校の共学化は、男女共同参画時代の到来に伴う教育的ニーズの高まりに応えたもので、女子と男子がお互いの価値観を認め合い、協力し合うことの意義を強く認識して成立しました。もちろん伝統に裏打ちされた明治ならではの人間教育は、移転・共学化後も変わることなくしっかりと継承されています。

【3】鵜澤総明教育振興・奨学金

創立100周年記念事業の一つとして「鵜澤総明教育振興・奨学金プログラム」を創設しました。この奨学金プログラムは、本校がこれまで歩んできた100年の伝統と偉業を継承するとともに、新たな100年を見据えた教育振興・奨学金プログラムです。このプログラムによる最大のねらいは、100周年記念事業募金による寄付金（積立金）を原資とする奨学金の活用により、生徒の興味・関心を醸成し、新たなチャレンジをサポートしていくことです。主なプログラムは表の通りです。

プログラム名称	内 容
I グローバルスタディプログラム	生徒の海外留学・語学力向上を支援することで、異文化理解や国際的なコミュニケーション能力の涵養を図るためのプログラム。 (例) 海外留学支援・校内英語コンテスト奨学金・国際交流助成等
II 教育・文化・スポーツ支援プログラム	教育・文化・スポーツの分野における活動を発展させていくための支援プログラム。 (例) 地域共同事業助成・芸術祭助成・文化、芸術、スポーツ奨励等
III キャリアサポートプログラム	生徒の進路選択および職業選択を支援するためのプログラム。 (例) 高大連携支援・外部講師招聘・大学進学助成等

【4】調布キャンパスの基礎情報

(1) スクールバスの導入

本校は通学時の安全性や利便性を確保するため、スクールバスを導入しました。スクールバスは、平常授業時以外も日曜・祝日、長期休暇中等は、生徒のクラブ活動に合わせて運行します。



[発着場所] 京王線調布駅中央口南側から約20分

京王線飛田給駅北口から約10分

JR中央線三鷹駅北口から約25分

JR南武線矢野口駅南口から約25分

[最終バス] 登校時刻に間に合う最終バスは、8時15分(飛田給駅発)、8時01分(三鷹駅発)、8時00分(矢野口駅発)です。下校時の最終バスは、飛田給駅・三鷹駅・矢野口駅行ともに18時30分(平日・休日)、17時30分(土曜)です。

参考資料：スクールバス ダイヤ(中学・高校共通)

通常平日【登校時】

時間	京王線				JR南武線					JR中央線				
	調布駅南口 発				飛田給駅北口 発					矢野口駅南口 発				
6時										58				57
7時	0				15 29 50 58					6 14 23 46 56				5 26 31 36 39
8時					6 9 11 14 15					0 40遅				1 45遅
					50遅									

遅：遅刻用

【下校時】

時間	京王線				JR南武線				JR中央線			
	飛田給駅北口 行				矢野口駅南口 行				三鷹駅北口 行			
15時	20 24 28 30				20 26 34 40				20 26 34 42			
	40 50				44 50				50			
16時	5 20 40				10 30 50				0 15 40			
17時	10 30 50				10 30				10 30 50			
18時	3 10 23 27				10 20 25 30				10 15 20 23			
	30								27 30			

G：府中グラウンド行

下線：考查一週間前から考查まで運休

※2026年5月1日時点。今後、発着場所(駅)や時間は変更になることがあります。

(2) キャンパス紹介

ア 施設全般

■敷地面積

・ 39,837 m²

■建物面積(延床面積)

・ 23,994 m²

・ 講堂・体育館棟、管理棟・教室棟(3階建)、部室棟で構成。

■建物外観

・ 外壁は茶系のタイル貼りで、周辺環境に配慮しました。

■空調設備

・ 全教室に冷暖房完備。

・ 環境に配慮したエコ・アイス(氷蓄熱式空調システム)を採用。

■防犯・防災

・ 機械警備システム、監視カメラ、緊急呼出装置、地震速報設備を導入。

■植栽

・ 校地を緑あふれるものとするため、既存樹木の移植も含め、合計14,000本以上の樹木を植樹。

・ 一部屋上緑化。



イ 学習環境

■図書館

① 面 積 644.86 m²

② 天井高 約 6 m

③ 床 フローリング

④ その他

・ 蔵書は日本語の本が約70,000冊以上、英語多読用の洋書が約8,000冊以上。

・ 図書館前の廊下は、図書館と一体感を持たせるためフローリング張とし、各教科との合同展開授業に対応するため隣接して教室を配置し、行き来することができる。

・ 調べ学習等に対応して、ノートPCを配備。なお、新聞社等の有料検索システムと契約しており、利用することができる。また、本校生徒は明治大学図書館(駿河台、和泉、生田、中野)も利用可。



■コンピュータ教室 2室

① 面 積 約102 m² / 1室

② 天井高 約 3 m弱

③ 床 タイルカーペット

④ その他

・ 高校生は個人PCを使用、中学生は貸出PCを使用。

・ 授業支援システムを導入し、「わかる・できる」を実感できる学習環境を整備。

■CALL教室 2室

① 面 積 約102 m² / 1室

② 天井高 約 3 m弱

③ 床 タイルカーペット

④ その他 ヘッドセット等、英語4技能に対応した設備を導入。

■HR教室

- ① 面積 72m²
- ② 床 フローリング(茶系)
- ③ 天井 岩綿吸音板(白系)
- ④ 壁 腰高まで：シナ合板
腰高より上：硬質石膏ボード(白)
- ⑤ 幅木 木製幅木
- ⑥ 付帯設備
内線電話、プロジェクター、無線AP、スポーツバック用収納ロッカー(木製)
- ⑦ その他
 - ・廊下に個人ロッカー(ダイヤル施錠式)を設置
 - ・机：幅65cm奥行き45cm高さ73cm
 - ・椅子：新JIS規格に対応したものを採用

■情報設備

- ・全教室にプロジェクターを設置。
- ・講堂及び放送室の映像を一斉に全教室に配信するシステムの導入。
- ・無線LAN環境整備。

ウ ゆとり空間

■エントランスホール

- ・縦12m、横50m、高さ6m。隣接して鶴澤総明ホール(講堂)前に縦8m、横30m、高さ6mのホワイエを配置。

■食堂

- ① 座席数 300席
- ② 床 フローリング、一部長尺塩ビシート
- ③ 天井高 約6m
- ④ その他
 - ・カフェテリア(50席)が隣接。
 - ・中1から高3まで利用可能。昼と放課後に営業。

■うざわふさあき鶴澤総明ホール(講堂)

- ① 座席数 1450席
- ② 床 タイルカーペット
- ③ 天井高 最大12.5m
- ④ その他
 - ・主要設備 舞台機構、音響・照明・映像設備、グランドピアノ
 - ・付帯設備 楽屋2室、倉庫

■多目的教室

- ① 座席数 298席
- ② 床 タイルカーペット
- ③ 天井高 3m弱
- ④ その他
 - ・学年集会、学校説明会など多目的な行事に対応可能な教室。

■作法室(和室)

- ① 広 さ 12畳×2間（ふすまを開け放ち、大広間としても利用可）
- ② 床 畳、フローリング
- ③ 天井高 3 m弱
- ④ その他
 - ・茶室を設置。

■廊下

- ・ゆとりをもたせ、南棟は幅 6 m、北棟は幅 4 mで、全廊下にベンチを設置。
- ・南棟 2 階コーナーには移動式テーブル、3 階コーナーには丸テーブルを設置。
- ・手洗い、冷水機、1 階にウォーターサーバーを設置。

■トイレ

- ・生徒数及び男女共学に対応した小便器、和便器及び洋便器を設置。
- ・女子トイレ洋便器ブース全てに擬音装置付き。
- ・女子トイレに生理用品自販機を設置（一部）。
- ・洋式トイレ洗浄便座設置。

エ 災害時の対応

■避難

- ・全校での避難訓練を年 2 回実施。
- ・防災および避難方法のマニュアルを教室掲示して徹底。

■食料備蓄

- ・全生徒・教職員数の80%を帰宅困難者、20%を帰宅可能者と想定。
- ・帰宅困難者には 3 日分、帰宅可能者には 1 日分の非常食を備蓄。
- ・非常食はアルファ米の他に、飲料水、クラッカーなどを用意。

■自家発電装置

- ・施設、設備法定点検時のバックアップ電源。汎用発電機 3 台。

オ その他

■インフォメーションコーナー

- ・中学校から大学まで、学校法人明治大学の情報を提供。

■面談室

- ・生徒、保護者面談用に 5 室設置。

■研究室、実験教室、実習教室

- ・各教科研究室、図書館教職員用閲覧室、理科実験教室（4教室）、美術室（2教室）、音楽室、技術室、調理室、被服室、書道室などを設置。

第2章 本校の教育

【1】基礎教育の徹底

(1) きめ細かな指導

本校では、調布移転に伴って1クラスの人数を減らし、これまで以上にきめ細かな教育を行っています。現在は中学が約35名、高校が約40名となっています。これにより、学習指導面・生活指導面の両面で、目の行き届いた教育が可能になりました。

在籍生徒数・クラス人数

(2026年4月集計)

	中学校				高等学校			
	男子	女子	計	クラス数	男子	女子	計	クラス数
1年	87	86	173	5	151	134	285	7
2年	86	83	169	5	138	135	273	7
3年	93	81	174	5	136	149	285	8
計	266	250	516	15	425	418	843	22

中学高校総計 1359人

授業でしっかり指導していても、現実には学習が遅れ気味の生徒が出てきます。学力の差がつきやすい英語と数学に対して、成績不振者を対象に毎週1回ずつの「7限補習講座」（高3を除く）を放課後に設けています。それに加え、夏休みを利用し、1週間の「夏期補習」を行っています。

(2) 教科の教育

現在、中学では週7時間の英語の授業のうちの4時間は、少人数授業(中1)、習熟度別授業(中2・3)の総合英語、2時間は英文法、1時間は外国人教員との英会話を行っています。特に英語、数学は宿題・小テスト等が多く、必要な負荷をかけることによって、基礎力の育成・定着を図ります。また、検定外教科書「New Treasure」(英語)「体系数学」(数学)を主教材として使用し、先取り授業も行っています。

高校1・2年生では、上級学年や大学で発展的な学習をするための基礎学力を広く深く養成するため、ほとんど全ての科目を必修とし、全員が同じ科目を学習しています。3年生では大学の志望にあわせて文系・理系に分かれ、その中で、さらに選択科目を設けています。なお、英語力の強化のため、高1の英語の授業を1時間増やし週6時間(コミュニケーション英語Ⅰ：4時間、論理・表現Ⅰ：2時間)としています。

【2】実践的教育の強化

(1) 選択科目の充実

大学付属校の教育の特色として、大学入学後や将来のグローバル社会に適応するための幅広い教養獲得につながるような選択科目を高校3年次に設置しています。文系では「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「簿記」などが選択でき、大学での学びにつながります。

(2) 探究型学習の強化

本校では、問題解決能力の育成を目的に「探究型学習」を、教科横断的に授業等に組み入れることを目標としています。そこでは、図書、新聞、雑誌、インターネット情報等

の活用法を学び、さらに「書く・まとめる」ことで言語能力の強化を目指しています。

■探究選択

高1・2年で身につけた基礎学力をもとに、探究的・発展的な学びをより深めることを目的に、高2後期・高3前期にかけて「探究選択」を設置しています。生徒は各教科で開講する16講座の中から、自らの興味に合わせて対象分野を選択します。

(3)資格取得

英語検定、TOEIC、漢字検定、簿記検定などの資格取得は、教科範囲を超えた実践力を高めるだけでなく、中高一貫校に見られる「中だるみ」現象を回避する効果もあります。

英語検定・TOEICは年3回校内で団体受験を実施し、2次対策指導は放課後に行います。英検は全生徒が中3までに準2級を、高3までに2級を取得することを目標にしています。2025年度は中学3年生の100%が準2級一次試験に合格しました（うち、94.2%は準2級二次試験まで合格）。また高校では、2025年度は高校3年生の99.7%が英検2級に合格し、さらに学年生徒のTOEICスコアの平均は571.3点となりました。

漢字検定は、本校独自の「校内漢字検定」と「日本漢字能力検定」を併用して行っています。高校卒業までに全員が「日本漢字能力検定」2級を取得することを目指しており、定期考査にも各級の漢字学習を組み入れています。

英語検定取得状況（2025年度末結果）

（参考：目標は最新の「年度末目標」）

学年	目標	達成度	4級	3級	準2級1次	準2級	2級	準1級	1級
中1	4級 100%	100.0%	124						
	3級 50%	26.6%		29	8	5	3		
中2	3級 100%	98.9%	1	10					
	準2級 50%	61.3%			19	130	13	1	
中3	準2級1次 100%	100.0%			9				
	準2級 100%	94.2%				112			
	2級 20%	29.5%					51	1	
高I	2級 50%	66.4%			15	67	176	6	
高II	2級 80%	92.3%			3	17	242	19	1
高III	2級 100%	99.7%				1	243	22	1

(4)情報教育

中学の技術・家庭科では、コンピュータとアプリケーションソフトの基本的な使い方等の基礎知識を学びます。高1では「情報Ⅰ」で各種ソフトやインターネットを利用し、コンピュータの活用法やメディアリテラシーを学びます。また、産学協同プログラムを導入し、企業から与えられる各種の課題に対して共同して取り組んでいます。高3では選択科目「情報Ⅱ」でレポート作成やプレゼンテーションのツールとして、積極的に活用できるよう指導しています。

2024年度から高校入学時に個人用ノートパソコン（学校指定端末「Laptop PC for 明大明治モデル」）を購入いただき、学校及び家庭でのICT学習に利用しています。高1での情報授業、高2・3での探究授業（生徒が主体的に選択する課題発見解決学習型のゼミ授業）、その他一部授業での学習、課題配付・提出等（明治大学教育支援シス

テム「Oh-o!Meiji」の利用)で活用しています。また、この機種は、明治大学のBYOD(Bring Your Own Device)推奨スペックにも適合しており、明治大学進学後も十分利用できるものを選定しております。

(5)図書館利用教育

図書館を読書のある場であると同時に学習の拠点としても位置付け、自発的な学習を育む場のひとつとしています。専任の司書教諭が教科教諭や担任教諭を支援し、生徒の読書指導、図書館を使用した学習の指導を行うこともあります。

■ミニ情報：図書館

図書館カウンターには、貸出・返却の他、読書相談・学習相談コーナーが設けられ、生徒はいつでも気軽に相談することができます。図書館は中庭に面した造りで、緑の芝生を臨むブラウジングスペースにはソファが置かれ、ゆったりくつろげる空間になっています。蔵書数は70,000冊以上、検索端末は4台設置され、図書だけでなく各種情報の検索も可能です。中庭を眺めながら勉強できる学習スペースなど、自習可能な座席は74席あります。

明治大学の中心となる法律、経済等の図書のうち、高校生にもわかるような専門書や新書などを数多くそろえ、英語科とのコラボとなる多読本は8,000冊以上まで増やしました。その他、豊かな読書生活のサポートのために、日本や海外の読み物もあります。手軽に読める文庫本や話題になった図書、鉄道やスポーツなどの趣味や部活動に役立つ本など、生徒がその成長や関心にあわせてよりよい本との出会いができるように、幅広い選書を心がけています。

【3】高大連携の推進

高大連携(高校と大学の教育連携)は本校の教育の特色の1つです。大学との連携を深めることで、生徒たちは進路に対する関心を高め、さらには大学で得る知識や資格の先取りを行うことができます。2005年度よりスタートした「プレカレッジプログラム」では、大学の授業を高校在学中に履修することができ、修得すると大学入学後単位が認定されます。

(1)高大連携講座

明治大学の直系付属校という恵まれた環境を活かし、大学の学部選択に対する準備講座を高2前期・高3後期の授業に組み込んでいます。この高大連携講座は大学教員が、直接本校で週2時間の授業を行います。キャリア教育の一環として実施し、生徒は適切な進路選択と幅広い知識の獲得を目指します。

(2)プレカレッジプログラム

希望する生徒は明治大学の授業を受講し、大学での学びを先取りすることができます。申請により、大学入学後に大学の単位として認定されます。進路選択のきっかけになることはもとより、いち早く大学での専門分野の学習をスタートできます。

(3)サマーセミナー、スプリングセミナー、ウインターセミナー

高大連携を一層進めるため、夏期休暇中に、「法曹入門講座」、「簿記講座(3級)」、「実験講座」、「プログラミング講座」、「留学準備講座」等を実施しています。また、春期休暇中には「簿記講座(3級)」、高3の3学期には「TOEFL講座」を実施しています。

(4)簿記2級速習講座

明治大学経理研究所と共同で、簿記2級合格を目的とし、夏期休暇から2学期の放課

後を利用して「簿記2級速習講座」を実施しています。

(5) 大学施設の利用

大学図書館(駿河台・和泉・生田・中野)、野球グラウンド(東府中)、プール(和泉体育館)など明治大学の施設が利用できます。直系付属校ならではのメリットです。

第3章 学習指導 ―― 基礎学力の保障と思考力・表現力の育成

中学校

2012年度の学習指導要領による教育課程では、ゆとり教育の見直しと多くの教科での学習内容の増加が話題となりました。しかし当時本校ではすでに文部科学省が定めたミニマムスタンダードを超える発展的な内容を学習し、また多くの時間数を確保して教育を行っていました。それは本校が考える学力の育成方針に基づくものです。明治中学では英語と数学を除き、むやみな先取り学習は行わない代わりに、じっくり深く基礎学力の習熟を図っています。明治高校ではその基礎学力をもとに、思考力や表現力の養成へとステップアップします。

【1】週6日制授業

本校では学力保障の観点から、土曜日を午前4時限の平常授業とする週6日制としています。週5日制で教育内容を維持しようとすることは難しく、いわゆる「つめこみ式」の教育になりかねません。週34時間をかけて、特に国語、社会、数学、理科、英語の5教科の授業が充実しているのも本校のカリキュラムの特色です。

【2】試験制度と評価

本校では3学期制を採用し、中学では年5回の定期考査に加えて、夏休み明けに5科の実力考査を行っています。成績評価は考査の成績以外に、宿題、提出物、小テスト、授業態度等を数値化した平常点を加え、100点法で算出します。また、総合成績を学年順位で示し、生徒の目標設定に役立てています。また、本校では人物の総合評価となる「行動評価」を学期ごとに出しています。中学から高校への内部推薦基準、高校から大学への推薦基準ともに、平常の学習成績評価と英語検定（と高校はTOEICスコア）、行動評価の観点からなっています。

【3】進級と進学

本校は大多数の生徒が進級し、明治高校さらに明治大学へと推薦入学していますが、決して「エスカレーター式」の学校ではありません。中1から高3までの各学年に進級基準があり、中学から高校、高校から明治大学へ進学を希望する場合は推薦基準があります。基準が充足されない場合は、原級留置や他高校受験、他大学受験となります。追試や仮進級制度などはありません。

【4】班・部活動との両立

本校では班・部活動も非常に活発ですが、同時に中高6年間は「頭脳の基礎体力」を築く時期でもあります。すべての生徒が学習習慣をしっかりと確立し、基礎学力の充実を図る必要があります。クラブ活動と学習の両立は、どの生徒にとっても重要な課題となります。そこで学習に真摯に向き合う環境を整える目的で、一部生徒を対象に、考査前のクラブ活動停止制度を設けています。通常は考査1週間前までクラブ活動ができるところを、成績下位生徒を対象に考査2週間前からクラブ活動を停止とし、当該期間、校内に設置される自習室などで試験準備に取り組むよう指導しています。対象となるのは考査成績において下位10%以下、または40点未満科目が複数となった生徒で、毎考査ごとに指名されます。

※班活動とは、学校に対する奉仕的な活動を行う団体を指します。

【５】各教科の特色

国語では幅広い読書を奨励するとともに論理的に表現する力を養います。社会では自分で調べ、それをもとに考え、批判する力を身に付けます。数学では思考力を高めることに主眼を置いています。理科では実験・観察を通して思考力を高めます。

参考資料 各教科の教科書および主な教材一覧（2027年度以降は変更する場合があります）

教科	教科書	副教材
国語	中学国語「伝え合う言葉」(教育出版) 中学書写（光村図書）	国語便覧東京都版(浜島書店) E漢字（とうほう） 的確につかむ文法の学習(浜島書店)
社会	中学生の地理(帝国書院) 中学校社会科地図（帝国書院） ともに学ぶ人間の歴史（学び舎） 中学生の公民(帝国書院)	地理の資料 用語図鑑付（正進社） 公民の資料 用語図鑑付（正進社） 歴史の資料 用語図鑑付（正進社）
数学	新しい数学１、２、３（東京書籍）	中学数BEKI（教育開発出版） 体系数学（数研出版） 計算検定問題集(本校数学科)
理科	未来へひろがるサイエンス１、２、３ (啓林館)	中高一貫進展理科（文理）
英語	New Treasure (Z会) New Treasure 文法問題集(Z会)	New Treasure Workbook (Z会) 基礎英語(NHKラジオ) など

【６】英語教育 ―Communicative Englishを目指して―

グローバル社会で求められる実践力(コミュニケーション力)を養うため、本校では「読む」「書く」「話す」「聞く」の４技能をバランスよく学んでいきます。週７時間という授業時間数を生かし、実用性の高い英語力を身につけることに加え、英検などの資格取得も目指しています。

■英語教育のポイント

(１)運用力を高める

少人数授業(２クラスを３分割、中学のみ)、外国人教員による授業(週１時間)

夏期はイギリス、春期はオーストラリアでの海外語学研修(希望者)

British Hills(福島県)での中学生イングリッシュキャンプ(希望者・春期３日間)

校内での中学生イングリッシュシャワー（希望者・冬期３日間）

(２)目標を持たせる

英語検定、習熟度別少人数授業(中２・３)

(３)多読を推奨する

中３から、定められた年間目標語数到達に向けて英語冊子を読み込む。英文インプット(理解)を増やし、レビュー提出でインテイク(定着)を充実させる。

(４)発信力を強化する

スピーチコンテスト[中３・高１]

(入賞者には奨学金助成による海外研修)

高等学校

2013年度(数学・理科は2012年度先行実施)の学習指導要領による教育課程では、ゆとり教育の見直しと多くの教科での学習内容の増加が話題となりました。しかし、当時本校ではすでに、文部科学省が定めたミニマムスタンダードを超える発展的な内容を学習し、また多くの時間数を確保して教育を行っていました。それは本校が考える学力の育成方針に基づくものです。明治高校では、大学入試の枠にとらわれずに培うことができる幅広い基礎学力をもとに、思考力や表現力の養成に力を入れています。

【1】週6日制授業

本校では学力保障の観点から、土曜日を午前4時限の平常授業とする週6日制としています。週5日制で教育内容を維持しようとするのは難しく、いわゆる「詰めこみ式」の教育になりかねません。週34時間をかけて、特に国語、地歴・公民、数学、理科、英語の5教科の授業が充実しているのも本校のカリキュラムの特色です。

【2】コース選択

通常、進学校では受験準備のため早いところで高校1年から、遅くとも2年から文系・理系や私大・国公立大といったコース選択を導入しています。しかし現実にはすべての生徒がその時点で進路を決定できているわけではありません。また1・2年次で配当された基礎科目を履修していないことで、進路選択を狭めるケースも見受けられます。

本校は受験勉強にとらわれずに学習できる大学付属の利点を生かし、高校2年までを「自分の適性を見極める時期」と考え、文系・理系の区別や入試科目偏重のカリキュラムを行わずに、広い基礎学力優先の教育を行っています。高校3年では、自分の適性・志望に基づいて文系・理系コースを選択し、それぞれのコース内選択科目の中から学びたい科目を選択します。

【3】試験制度と評価

本校では3学期制を採用し、高校では年5回の定期考査を行っています。成績評価は考査の成績以外に、宿題・提出物・小テスト・授業態度等を数値化した平常点を加え、100点法で算出します。また、総合成績を順位で示し生徒の目標設定に役立てていることに加えて、人物の総合評価となる「行動評価」を学期ごとに出しています。高校から大学への内部推薦基準は、平常の学習成績評価と、英語検定・TOEIC、行動評価の観点からなっています。

【4】進級と進学

本校は大多数の生徒が進級し、明治大学へ推薦入学していますが、決して「エスカレーター式」の学校ではありません。高1から高3までの各学年に進級基準があり、高校から明治大学へ進学を希望する場合には推薦基準があります。基準を満足しない場合には、原級留置や他大学受験となります。追試や仮進級制度などはありません。

【5】各教科の特色

国語では幅広い読書を奨励するとともに、論理的に表現する力を養います。地歴・公民では自分で調べ、それをもとに考え批判する力を身に付けます。数学でも思考力を高めることに主眼を置いています。理科では実験・観察を通して思考力を高めます。英語では今後のグローバル社会で求められる実践力を養うため、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を育成し、大学入学共通テストにも十分通用するよう指導しています。

【6】英語教育 -Communicative Englishを目指して-

グローバル社会で求められる実践力(コミュニケーション力)を養うため、本校では「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能をバランスよく学んでいきます。実用性の高い英語力を身につけるだけでなく、英語検定やTOEICなどの資格取得にも積極的に取り組んでいます。

■英語教育のポイント

(1) 運用力を高める

検定演習授業を必修(高2・高3)、外国人教員による授業(週1時間)、夏期はイギリス(ケンブリッジ大学)・カナダ、春期はオーストラリアでの海外研修(希望者)

高3の明大進学予定者を対象とした3ヶ月海外研修(ヨーク大学)(希望者)

(2) 目標を持たせる

英語検定、TOEIC、結果を大学推薦成績に反映

(3) 多読を推奨する

高1から高3まで、定められた年間目標語数到達に向けて英語冊子を読み込む。英文インプット(理解)を増やし、レビュー提出でインテイク(定着)を充実させる。

(4) 発信力を強化する

スピーチコンテスト[中3・高1]

イングリッシュプレゼンテーション[高2・高3]

(入賞者には奨学金助成による海外研修)

【7】班・部活動との両立

本校でも、学習と班・部活動の両立は重要な課題の1つです。そこで学習に真摯に向き合う環境を整える目的で、一部生徒を対象に、考査前のクラブ活動停止制度を設けています。通常は考査1週間前までクラブ活動ができますが、成績下位者は2週間前から活動停止となり、当該期間は校内に設置される自習室などで試験準備に取り組めます。対象となるのは、毎考査成績において下位10%以下、または40点未満科目が複数となった生徒です。

【8】内部進学生徒と高入生徒

高校1年入学当初から明治中学出身者と同じクラスで学習します。明治中学では英語と数学で高校内容を一部先取り学習していますが、その範囲は入学前の春休みの宿題になります。数学の先取り分野については、入学後の補習授業でもケアします。また、入試教科でない理科や社会の学習を中学校で軽視すると、入学後苦勞するケースがありますので、こうした教科でも基礎学力は確実に身に付けておいてください。

第4章 学校生活 —— ルールを守り、「独立自治」を育む

本校では知性だけに片寄ることなく、感性や体力を養うことも重視し、人間性あふれる人物を育てることを目指しています。特に、多彩な学校行事や活発なクラブ活動を通じ、建学の精神である「独立自治」「質実剛健」を育てていきます。

【1】学校行事

学校行事は学校生活に彩りを加え、人間形成と人格陶冶のうえで重要な教育活動となっています。特に文化祭、体育祭、修学旅行、林間学校といった学校行事は生徒たち自身の手によって企画・運営されます。そうした体験を通じ、生徒たちは協力することの大切さや企画・運営することの難しさなどを学びます。

主な学校行事（2026年4月時点）

(1) 紫紺祭(文化祭) 中高共通

本校で最も大きな行事で、9月下旬の土・日曜に実施されます。高2が中心になって委員会を組織し、企画・運営を行います。展示、催し物、演奏、露店など、見所満載です。吹奏楽班、応援指導班のステージでは、学校全体が紫紺に染まります。

(2) スポーツ大会 高校

6月上旬に行われるスポーツ大会は高校生だけの行事です。高3の委員を中心に企画・運営を行います。高校全クラス対抗で優勝を争いますので、各クラスではオリジナルのTシャツを作成し、応援にも一段と熱が入ります。

(3) 体育祭 中学

10月下旬に行われる体育祭は中学生だけの行事です。中3を中心に企画・運営を行います。中1から中3の縦割りクラス対抗で行います。

(4) 修学旅行 中学

中3の5月下旬に奈良・京都方面で実施。歴史ある社寺を訪ね、優れた文化財に触れます。班別での自主研修や座禅も実施します。中2で実施する静岡方面での移動教室は、社会科学習の要素に加え、修学旅行へ向けての準備という側面もあります。各旅行行事では、生徒による旅行委員会が組織され、教員と一緒に行程を企画、事前事後の学習を進めます。

(5) 修学旅行 高校

高2の11月に沖縄方面で実施。高1から旅行委員会を組織し、生徒が中心となって企画・運営を行う修学旅行は、苦労も多い分一生の思い出となります。

※2027年度高校入学生より、高校修学旅行の時期・方面の変更が検討されています。

(6) 林間学校 中学

5月下旬に中1で実施。長野県菅平の大自然のもと、アウトドアでの共同作業を通じて、クラス、学年の親睦を深めます。

(7) 林間学校 高校

5月下旬に高1で実施。群馬県みなかみの大自然のもと、アウトドアでの共同作業を通じて新入生がクラスに溶け込み、団結をはかる絶好の機会となっています。

(8) 六大学野球応援 中高共通

神宮球場で大学生と一緒に校歌を歌い、応援します。「明治」スピリットが芽生えます。



(9) 海外研修（中3～高3）

カナダのトロント大学やイギリスなどで実施されるコース（夏休み）や、オーストラリアでホームステイをしながら現地校へ通うコース（春休み）などがあります。語学研修や小旅行を通し、英語の運用力を高めます。また、高3の明治大学進学予定者を対象としたヨーク大学（カナダ）での3ヶ月海外研修も2018年度より実施しています（いずれも希望者のみ：選抜あり）。

【2】生活指導と学習指導

本校は、「なんでも自由」な校風ではありません。とは言っても、生徒に求めているのは「あいさつ」「身だしなみ」「時間を守る」など、社会の一員として当然に必要とされているマナーです。学習指導は生活指導なくして成り立ちません。基本的な生活習慣を身に付け、自分の目標を定めることで、学習効果も上がると考えています。

また、本校では染髪、ピアス、アルバイトなどを禁止しています。スマートフォン・携帯電話は許可制で、登校後は電源を切り個人ロッカーに保管することになっています。

【3】クラス編成 **高校**

入学当初から明治中学出身者と同じクラスで学校生活を送ります。明治中学出身の生徒とうまく溶け込めるか不安に思われる方も多いと思いますが、明治中学出身者は気さくでおだやかな生徒が多く、仲間に入れるかどうかという心配はいりません。また、1学期のスポーツ大会と林間学校は、お互いに打ち解け合い、クラスが団結する絶好の機会となっています。

【4】クラブ活動

本校には37の班・部があり、ほとんどの生徒（中学で約97%、高校で約90%）がいずれかに所属しています。ほぼ毎日活動しているクラブも多く、活動はとても活発です。本校では、学校に対する奉仕的な活動も行う団体を「班」と呼んでいます。

班・部活動実績

サッカー部	関東大会予選ベスト16（高校） 第9ブロック優勝、都大会第3位（中学）
バドミントン部	地区新人大会ダブルス準優勝（中学女子）、都西ブロック二部3位（高校女子）
バスケットボール部	都私学大会3位、都大会出場（中学男子）、IH予選4回戦進出（高校女子）、都大会ベスト32（高校男子）
水泳部	ジュニアオリンピック予選出場
硬式野球部	秋季ブロック大会優勝、都大会ベスト16
剣道部	東京都高等学校秋季剣道大会Ⅱ部女子団体準優勝 東京都高等学校新人剣道大会男子団体ベスト16
中学野球部	第9ブロック優勝、都大会ベスト32
硬式テニス部	全国私学大会出場（高校男子）、全中・全国選拔出場（中学男子）、都私学大会ベスト16（高校女子）、多摩大会団体優勝（中学女子）
柔道部	関東大会支部第3位、都大会出場（高校）
バレーボール部	関東大会出場（高校男子） 都大会一部大会出場（高校女子） 都大会ベスト8（高校男子）
スキー部	インターハイ出場、全国中学校スキー大会出場、国体出場、ジュニアオリンピック出場
地理研究部	「私たちの身のまわりの環境地図作品展」日本地理学会長賞
書道部	全国競書大会（日本書道美術院主催）特待賞、理事長賞
歴史研究部	『歴史研究』に論文掲載
美術部	全日本学生美術展推奨・特選・佳作入選
マンドリン部	全国高校ギター・マンドリン音楽コンクール朝日新聞社賞、優秀賞
化学部	全国学芸サイエンスコンクール（自然科学研究部門・高校生の部）入賞
映画部	高校生フィルムコンテスト最優秀賞・演技賞
ダンス部	DANCE CLUB CHAMPIONSHIP（全国高等学校ダンス部選手権）決勝大会出場、日本中学校ダンス部選手権全国決勝大会進出
新聞班	信毎フォトコンテスト入賞
放送班	東京都高等学校文化祭中央大会放送部門（朗読部門・3年の部）第2位
吹奏楽班	東京都高等学校吹奏楽コンクール金賞（A、B、C組すべて） ウイーン楽友協会黄金ホールにて単独公演
図書班	岩波書店編集部出張読書会、調布市立図書館POP展示

スポーツ施設紹介

■グラウンド *2023年度全面改修

- ① 広 さ 100m走路7レーン、250mトラック、走り幅跳び(砂場+50m助走路)
軟式野球場2面、サッカーコート1面
- ② 材 質 人工芝(近隣への砂塵対策)

■テニスコート *2019年度全面改修

- ① 広 さ 5面
- ② 材 質 砂入り人工芝

■第1体育館(メインアリーナ)

- ① 広 さ 6人制バレーコート4面、バスケットボールコート2面
- ② 床 フローリング
- ③ 天井高 12.5m(バレーボール公式ルールに基づく天井高を確保)
- ④ その他 2階部分にランニングトラック(幅1.5m)、セパレーターネット

■第2体育館(サブアリーナ)

- ① 広 さ 6人制バレーコート2面、バスケットボールコート1面
- ② 床 フローリング
- ③ 天井高 7.5m
- ④ その他 セパレーターネット

■柔道場

- ① 試合場 2面
- ② 床 柔道畳、フローリング
- ③ 天井高 約4m

■剣道場

- ① 試合場 2面
- ② 床 フローリング
- ③ 天井高 約4m

■その他

- ①製氷機を設置。
- ②各所に冷水機を設置。
- ③更衣室4室
- ④更衣シャワー室2室(1室あたりシャワーブース4か所)
- ⑤トレーニング機器

校外施設

■硬式野球部グラウンド

- ① 名 称 明治大学府中グラウンド第二球場
- ② 所在地 府中市若松町5-6-1(旧三井物産グラウンド)
- ③ 交 通 京王線東府中駅より徒歩20分
(本校校舎から直線距離で約3km)
- ④ 規 格 センター105m、両翼90m
- ⑤ 材 質 天然芝(外野)、混合土(内野)
- ⑥ その他 2007年度より東京都秋季・春季大会の会場校。

隣接する第一球場(大学硬式野球部専用球場)は、2009年度より全国高等学校野球大会の東東京・西東京大会会場校。

校舎から府中グラウンドまでは、スクールバスで移動(往路のみ)。

大学硬式野球部との連携により、第一球場での活動も可能。

中学野球部も利用可能。



種別	班・部名	中学		高校		総計	活動日数 (週)
		男	女	男	女		
班	生徒会本部	24	38	37	49	148	週1～6
	応援指導班	4	15	1	28	48	週3
	新聞班	1	2	0	11	14	週1～2
	吹奏楽班	4	27	9	43	83	週5～6
	放送班	5	4	2	7	18	週1
	図書班	4	12	1	5	22	週2
運動部	剣道部	2	5	13	13	33	週4
	硬式野球部			34	4	37	週6
	中学野球部	21	0			21	週5
	高校山岳部			3	4	7	週1～2
	水泳部	2	2	13	2	19	週4
	スキー部	7	6	14	16	43	週3
	卓球部	21	8	15	5	49	週5
	柔道部	3	2	4	6	15	週4
	高校ソフトテニス部			15	20	35	週4～5
	バレーボール部	18	19	26	18	81	週4～5
	バスケットボール部	16	17	43	16	92	週5～6
	バドミントン部	12	20	22	18	72	週4～5
	陸上競技部	10	11	27	4	52	週4
	サッカー部	58	0	58	0	116	週4～5
	男子硬式テニス部	51		58		109	週4
	女子硬式テニス部		40		40	80	週3～4
文化部	ESS部	1	0	2	6	9	週2
	マンドリン部	0	14	0	15	29	週5
	物理部	5	2	8	0	15	週3
	化学部	1	2	2	2	7	週3
	生物部	2	3	4	3	12	週2
	書道部	1	12	0	19	32	週2～3
	地理研究部	9	6	16	2	33	週3
	歴史研究部	8	4	4	3	19	週3
	美術部	0	9	0	13	22	週3
	地学部	6	7	10	6	29	週2
	映画部	4	4	3	9	20	週3
	コンピュータ部	0	0	1	2	3	週1
	鉄道研究部	8	0	9	1	18	週3
	ダンス部	0	15	0	43	58	週3
新設	料理研究部	0	9	2	12	29	週2

活動日数（原則）

中学 週5日まで

高校 週6日まで

総班員数

班	男子	女子	合計
中学	42	98	140
高校	50	143	193
合計	92	241	333

水泳部：学校案内P.19 上段をご確認ください。

運動部

総部員数

	男子	女子	合計
中学	221	130	351
高校	345	166	511
合計	566	296	862

文化部

総部員数

	男子	女子	合計
中学	45	94	139
高校	63	136	199
合計	108	230	338

第5章 進路指導 ―― 志望学部進学を目指して

中学校から高等学校への推薦基準は、①中学3年の2学期末までの成績において、9教科の成績に40点未満の教科がなく、5教科の成績が平均55点以上であること、②英検準2級1次以上の合格していること、③行動評価「良」以上となっています。2024年度は、中3生181名中178名が明治高等学校に推薦され、内部進学しました。

高等学校から大学へは、人物および適性と3年間の学習成績により明治大学各学部へ推薦されます。2025年度高校3年生の推薦基準は、①高校3年間の総合推薦成績が平均60点以上、②英語検定2級合格、③TOEIC450点以上の取得、④行動評価「良」以上となっています。2025年度の高校3生は、265名中241名(うち農学部自己推薦特別入試合格3名)が大学に推薦され進学しました。本校が明治大学唯一の直系付属校であることから、明治大学への推薦枠に恵まれ、これを最大限生かした結果です。また、密接な高大連携や、一人ひとりを大切にしたいきめ細かな進路指導は高1から始まり、本校教員、大学教員、卒業生などが一体となり、重層的に指導にあたっています。

さらに、明治大学以外の大学を志望する場合、国公立大学および大学校の場合は、明治大学の推薦資格を保持したまま併願受験ができ、2025年度は、現役で他大学に進学した22名中9名が国公立大学に進学しています。進学先は、一橋大、筑波大(医)、名古屋大、東京農工大、電気通信大、東京海洋大、千葉大です。私立大学の場合は、併願する明治大学の学部・学科ごとに条件が異なりますが、一部併願可能です。2016年度から導入された私大併願制度が定着してきた結果、私立の他大学への進学も増加傾向にあります。⇒『学校案内』10ページ

参考資料 高校3年 進路指導年間計画

第1学期

4月 卒業・大学推薦基準及び進路説明会

6月 明治大学理工学部・農学部・総合数理学部 研究室訪問・公開授業

第1回進路志望調査

明治大学学部別説明会

7月 国公立併願受験および他大学受験者説明会

夏休み 高大連携サマーセミナー

「法曹入門講座」「簿記講座(3級)」「留学準備講座」

明治大学理工学部プログラミング講座 等

明治大学総合数理学部データサイエンス体験 等

第2学期

11月 最終志望調査・明治大学推薦願

12月 大学推薦判定会議

第3学期

1月 3学期特別授業 学部別入学前教育

明治大学出願手続き 明治大学推薦面接試験

大学入試共通テスト

高大連携ウインターセミナー「TOEFL講座」

2月 3学期特別授業 学部別入学前教育

大学推薦合格発表

3月 卒業式

第6章 入学試験 ―― 学校のもうひとつの顔

I 中学校

学校の入学試験には「こんな生徒たちに出会いたい」というメッセージが込められています。私たちも「基礎学力を持った」「思考力・表現力が備わった」そして「本校で学びたいと思っている」生徒たちに出会いたいと願っており、それが実現できるような入試問題づくりを心がけています。また、本校の合格基準(最低)点は、中学の場合約60%前後となっています。これは、難問・奇問を廃し、前に述べた生徒が実力通りに合格できるよう配慮したものです。

【1】2026年度中学入学試験の概況

(1) 入試結果

	第 1 回				第 2 回			
	2026年度		2025年度		2026年度		2025年度	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
志 願 者 数	263	265	324	334	257	290	279	270
受 験 者 数	232	238	277	310	127	170	156	171
合 格 者 数	110	71	108	90	39	44	36	40
実 質 倍 率	2.11	3.35	2.56	3.44	3.26	3.86	4.33	4.28
受験者平均点	193.70	189.32	183.85	182.67	166.64	179.12	196.45	198.89
合格者平均点	220.97	225.83	216.30	220.90	193.03	208.41	234.64	235.88
合 格 最 低 点	199	205	195	205	179	191	221	220

(2) 男女比 1:1 と合格最低点

合格者は、第1回では定員約90名に対し181名(男子110名、女子71名)、第2回では定員約60名に対し83名(男子39名、女子44名)としました。なお、男子8名の追加合格を発表しました。

(2026年度追加合格女子はなし。2025年度追加合格者は男女ともになし。)

共学当初は、入学者の女子割合が30±5%になるよう定めていましたが、年を追うごとに高レベルの女子が志願するようになり、合格最低点の男女差が広がりました。これを是正する目的で2013年度より入学者の女子割合を40±5%になるように変更し、2020年度には男女比を1:1になるよう変更しました。2026年度の合格最低点の男女差は、第1回は女子が6点、第2回は女子が12点高くなりました。(2025年度第1回は女子が10点、2回は男子が1点高くなりました。)実際の入学者数は男子86名、女子87名、女子割合は50.3%です。(2025年度入学者数は男子86名、女子83名、女子の割合は49.1%でした。)

(3) 本校志願者居住エリアは安定

志願者数地域別比較

地 域	2026年度	2025年度	2024年度	2023年	2022年度	2021年度
東京都区部	41.5%	42%	42%	37%	43%	41%
東京都市部	40.5%	39%	39%	41%	33%	34%
神奈川県	14.0%	14%	15%	17%	18%	20%
千葉県	0.2%	1%	1%	1%	1%	1%
埼玉県	2.8%	3%	3%	3%	3%	4%
※その他	1.1%	1%	※上記地域以外、海外など			

(4) 第一志望率

新入生アンケートで調査している第一志望率は、男子は前年比+8.3%、女子は前年比+6.2%となりました。

第1回と第2回の合計の手続き率は男子が57.7%、女子が75.7%でした。

なお、本校を第一志望でないと答えた生徒の第一志望校は、男子は例年通り早稲田実業、早稲田大高等学院、早稲田、慶應普通部、慶應中等部などでした。

女子も男子と同様に、例年通り早稲田実業が一番多く、雙葉、女子学院、吉祥女子などでした。

	第一志望率	
	男子	女子
2026年	47.8%	67.6%
2025年	39.5%	61.4%
2024年	47.3%	74.7%
2023年	45.3%	61.8%
2022年	43.3%	62.5%
2021年	41.9%	56.1%
2020年	47.3%	57.1%

本校志望理由の順位にはほぼ変動はありません。男女ともに「大学付属」が1位、続いて「校風」「施設・校舎」等が続きます。

志望理由ベスト5

		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2026 年	男子	大学付属 (82.6%)	校風 (71.0%)	施設・校舎 (65.2%)	教育内容 (34.8%)	交通の便 (26.1%)
	女子	大学付属 (91.9%)	校風 (68.9%)	施設・校舎 (55.4%)	交通の便 (31.1%)	教育内容 (27.0%)
2025 年	男子	大学付属 (84.8%)	校風 (68.7%)	施設・校舎 (60.5%)	交通の便 (28.0%)	教育内容 (24.4%)
	女子	大学付属 (86.7%)	校風 (72.3%)	施設・校舎 (56.6%)	教育内容 (29.0%)	交通の便 (18.1%)

(5) 受験者平均点

受験者平均点は、第1回では男子平均点が女子平均点よりも4.38点上回りました。教科別でみると、第1回は女子が男子よりも国語で4.25点上回りましたが、他の3教科は男子が、女子を上回る結果となりました（算数4.03点差、理科1.8点差、社会0.81点差）。

第2回入試では、2009年度から一貫して女子平均点が男子の平均点を上回っています。連続で10点以上の差が生じていましたが、2019年度に1.95点、2020年度は3.94点と比較的落ち着きました。2021年度5.15点差、2022年度5.55点差、2023年度7.72点差、2024年度7.72点差、2025年度2.44点差でしたが、2026年度は12.48点と大きく差がひらきました。教科別では、第1回と異なり、4教科とも女子が男子を上回った結果となりました（国語6.3点差、算数2.1点差、理科2.07点差、社会2.01点差）。

教科別受験者平均・合格者平均点の男女別比較

			国語	算数	理科	社会	合計
第1回	男子	受験者平均	54.17	40.72	53.66	43.15	193.70
		合格者平均	58.74	53.36	59.00	49.87	220.97
	女子	受験者平均	58.42	36.69	51.86	42.34	189.32
		合格者平均	65.42	51.75	59.35	49.31	225.83
第2回	男子	受験者平均	47.09	27.36	48.35	43.83	166.64
		合格者平均	52.00	40.15	52.08	48.79	193.03
	女子	受験者平均	53.39	29.46	50.42	45.84	179.12
		合格者平均	58.57	43.57	54.73	51.55	208.41

教科別受験者・合格者平均点とその差（男女合計）

	教科	配点	受験者平均	合格者平均	差
第1回	国語	100	56.32	61.36	5.04
	算数	100	38.68	52.73	14.05
	理科	75	52.75	59.14	6.39
	社会	75	43.73	49.65	5.92
	合計	350	191.48	222.88	31.40
	合計	350	191.48	222.88	31.40
第2回	国語	100	50.70	55.48	4.78
	算数	100	28.57	41.96	13.39
	理科	75	49.54	53.48	3.94
	社会	75	44.98	50.25	5.27
	合計	350	173.78	201.18	27.4
	合計	350	173.78	201.18	27.4

例年、第1回、第2回入試ともに、「合格者平均－受験者平均」の値は、算数が最も大きくなります。各教科の得点状況と合格との相関関係を調査した入試分析からは、

①「算数」ができないと合格は難しい。

②「国語」「理科」「社会」の3科をバランスよく得点すること。

という2点が明治中学合格へのポイントとしてあげられます。

【2】2027年度中学入試の出題方針

本校の入学試験は国語、算数、理科、社会の順番に行なわれ、基礎知識に加え、思考力・表現力を見る問題が数多く出題されます。

[国 語]

例年、説明文を中心にした長文問題を出題し、国語では読解力や表現力を見る作問を行っています。長文問題では速読速解の力が求められますので、文章に読み慣れておく必要があります。また、要旨や主題などを記述の形式で答えてもらうこともあります。表現力も見ています。文中のキーワードに注意して、的確にまとめることが求められます。字数制限のある問題では、句読点も字数に含み、制限字数の8割以上は書くようにして下さい。問題文をよく読み、「何をきかれているのか」をよく考えて答えてください。部分点も見えますが、ピントがずれていると得点にはなりません。また、記述問題中の誤字や脱字にも十分気をつけて下さい。句点のないものも減点対象になります。漢字は例年10問出題され、1問2点なので、意外と得点の差がついています。また、漢字の問題では画数やバランスの乱れがあった場合は不正解になりますので、ていねいに書いてください。語句に関する知識問題も例年出題しています。日頃から辞書をこまめに使い、正しい日本語を使う習慣をつけておいてください。

[算 数]

算数では受験生の計算力だけでなく、思考力を見る作問を行っています。①は答えのみを記入する1行問題で、例年5つの小問が出題されています。1つの小問の配点(7～8点)が高いため、慎重に解いてください。②から⑤までの問題は、必ず「式や考え方」を書いてください。これは受験生の考え方を見るためです。答えが不正解でも途中式が正しければ、部分点が出ることもあります。「式や考え方」では、線分図や面積図、場合によっては方程式を使ってもかまいません。それぞれの問題はレベルに差がありますので、難易度が高い問題に時間をかけ過ぎず、解ける問題をケアレスミスなく解けるよう、時間配分に十分注意してください。また、計算ミスで合否を分けることも多々ありますので、検算する時間を残しておくことを推奨します。本校では入学後に計算検定を実施するなど計算力を重視しています。たかが計算と思わず、日頃から練習するように心がけてください。

[社 会]

社会では基礎知識を問う作問と思考力・問題解決力を問う作問に大別することができます。地理、歴史、公民からほぼ均等に問題が出題され、分野をまたがる問題も出題しています。一見難しそうに見えても、基礎知識がきちんと備わっていればできる問題が大半です。時事問題の出題もありますので、テレビや新聞などで、できるだけニュースなどに関心を持つことをお勧めします。また、思考力を試すため、教科書等で直接習っていないことをその場で考えさせる問題も出題しています。受験生全員が知らない事柄について、出題の文章や資料、地図などを手がかりに、自分で考えて解答を見つける問題です。また、漢字指定の問題はもちろんですが、それ以外の問題でも原則として小学校の教科書で漢字表記となっている人名、地名、できごとなどの用語は、漢字で答えてください。

[理 科]

理科では基礎知識だけでなく、思考力をみる作問をしています。物理・化学・生物・地学の各分野よりバランスよく出題しています。テレビや本を活用したり、実生活の中でも、

自然科学への関心を持ったりするように努めてください。「なぜ？」と思う気持ちが理科の学習には一番大切です。さまざまな知識は持っているだけでなく、整理し、使えるようにしてください。また、実験・観察は「結果がこうなる」と覚えるだけでなく、結果からわかることを考察できるようにしてください。このような理由から本校では、実験や観察をベースにグラフを読みとる問題、作図問題、計算問題、記述問題を出題しています。

【3】各教科の勉強方法

新入生アンケートによる「合格の秘訣となった勉強方法」を紹介します。別冊『Meiji Data Box 2026』の2～3ページをご参照ください。

【4】2027 年度中学入試のポイント

（1）募集人数・男女比（男女比 1 : 1）

昨年度と同様、男女約150名（帰国生を含む）を募集します。第1回の募集人数は約90名、第2回は約60名ですが、実募集人数は10%程度増となっています。また、2008年の共学以降、全体の65～75%が男子、25～35%が女子になるよう合格調整していましたが、経年傾向として女子受験生の高得点者が多く、男女の合格ボーダーラインの差を少なくするために、2013年入試より、全体の55～65%が男子、35～45%が女子になるよう変更し、2020年度からは男女比 1 : 1 を目指して合格者を発表することになりました。合格最低点は男女で異なる場合があります。

（2）出願方法

Web出願システム（miraicompass）による出願です。

（3）合否判定

4教科の合計点で判定します。教科ごとの基準点はありません。4教科の合計は350点満点です。2026年度入試での合格最低点は、第1回入試は男子199点（約57%）、女子205点（約59%）、第2回は男子179点（約51%）、女子191点（約55%）でした。追加合格者は、例年、入学手続日の夕方以降に電話で連絡します。2026年度の追加合格発表は男子8名でした。（2025年度は男子2名、女子9名、2024年度は男女ともになし）

（4）2回受験優遇制度

第2回入試において、第1回入試受験者を対象にボーダーラインにおいて3点の優遇措置が受けられます。2026年度の第2回入試合格者のうち、約65%は第1回入試の受験者でした。

（5）帰国生優遇制度

2年以上継続して海外に在住し、入学2年前（4年生の3月以降）に帰国した場合5点の優遇が、5年以上継続して海外に在住し、入学1年前（5年生の3月以降）に帰国した場合10点の優遇が受けられます。居住国は問いません。なお、募集定員は特に設けず、一般入試の枠内で行います。選抜方法は通常の4教科入試の結果に加点する形となります。

(6) 合格発表

第1回、第2回とも合格発表予定時刻は入試当日の22時です。ただし、合否判定が終了次第発表します。

(7) 延納制度

入学金以外の諸費用については延納ができます。延納期限は原則として併願校の最終合格発表日の翌日までです。延納を希望される方は、入学手続き時に延納の申請を行ってください。

Ⅱ 高等学校

学校の入学試験には「こんな生徒たちに出会いたい」というメッセージが込められています。私たちも「基礎学力を持った」、「思考力・表現力が備わった」そして「本校で学びたいと思っている」生徒たちに出会いたいと願っており、それが実現できるような入試問題づくりを心がけています。

【1】2026年度高校入試の概況

(1) 入試結果

	一般入試				推薦入試(除指定校)			
	2026年度		2025年度		2026年度		2025年度	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
志 願 者 数	358	249	388	252	38	52	53	44
受 験 者 数	339	239	357	238	38	52	53	44
合 格 者 数	186	90	156	84	16	17	16	16
実 質 倍 率	1.82	2.66	2.29	2.83	2.38	3.06	3.31	2.75
受験者平均点	173.77	172.20	154.75	153.08	79.37	77.38	75.96	82.02
合格者平均点	198.35	202.30	185.84	182.76	96.31	94.06	92.44	93.88
合格最低点	171	180	160	162	76	76	75	79

(2) 推薦入試の男女比調整

2013年度より、推薦入試の男女調整を「指定校を除き男女比1:1にする」ことを、2020年度からは一般入試でも「男女比1:1」にすることを入試基準として運用することになりました。推薦入試は適性検査の150点満点に面接点を加算して総合的に判断するため、男女の点数差は一概には判断できませんが、適性検査のみの合格最低点は男女ともに76点でした。

(2025年度は女子が男子を4点上回りました。)

(3) 一般入試の男女比調整

一般入試では女子受験生の学力レベルが上昇し、男女の競争倍率の差が大きく開き、合格最低点の男女差も拡大する傾向が顕著となりました。そこで2013年度より、それまで男子7:女子3としてきた男女比を6:4にし、2020年度入試からは男子1:女子1の割合に変更しています。入学手続率による変動範囲を±5%と想定して、合格者を発表していきます。

2026年度の一般入試では、276名(男子186名、女子90名)を合格者として発表しました。うち、追加合格者は女子6名でした(2025年度追加合格者は男子9名、女子6名、2024年度追加合格者男子女子ともにありませんでした)。男女の合格最低点は女子が9点差で上回りました。また、男女間の実質倍率の差は前年度が0.54であったのに対し、2026年度は0.84差となりました。

(4) 志願者居住エリア

志願者数地域別比較 2026年度は【高校一般入試／推薦入試（指定校含む）】

過年度は【高校一般入試】データのみ掲載。

地 域	2026	2025	2023	2022	2021	2020
東京都区部	38.4％／25.3％	41％	35％	40％	39％	37％
東京都市部	34.1％／35.4％	35％	35％	29％	30％	33％
神奈川県	14.5％／23.2％	13％	15％	16％	18％	16％
千葉県	1.0％／3.0％	1％	2％	3％	2％	1％
埼玉県	10.9％／10.1％	9％	12％	11％	10％	13％
※その他	1.2％／3.0％	1％	※上記地域外、海外など			

(5) 第一志望率

新入生アンケートで調査している第一志望率は、男子は前年比-2.4％、女子は前年比+4.2％となりました。

本校を第一志望でないと答えた入学者の第一志望校は、男子が早稲田実業、早大学院、早稲田本庄、慶應、慶應志木、都立日比谷、都立西、都立国立、県立横浜翠嵐などでした。女子は早稲田実業、早稲田本庄、慶應女子、都立日比谷、都立西、都立国立、お茶の水女子大附属など でした。

	第一志望率	
	男子	女子
2026年度	50.9％	74.4％
2025年度	53.3％	70.2％
2024年度	50.0％	51.0％
2023年度	45.1％	61.8％
2022年度	58.1％	60.0％
2021年度	65.7％	59.6％
2020年度	50.0％	60.3％
2019年度	52.9％	65.9％

志望理由ベスト5

		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2026 年度	男子	大学付属 (98.2％)	校風 (65.5％)	施設・校舎 (60.0％)	教育内容 (34.5％)	交通の便 (21.8％)
	女子	大学付属 (100.0％)	校風 (58.1％)	施設・校舎 (51.2％)	教育内容 (46.5％)	交通の便 (20.9％)
2025 年度	男子	大学付属 (95.6％)	校風 (55.6％)	施設・校舎 (44.4％)	教育内容 (44.4％)	交通の便 (33.3％)
	女子	大学付属 (93.6％)	校風 (68.1％)	施設・校舎 (46.8％)	教育内容 (42.6％)	交通の便 (40.4％)

(6) 教科別受験者平均点の男女別比較

教科	一般入試			推薦入試(除指定校)		
	配点	男子	女子	配点	男子	女子
国語	100	48.40	52.36	50	25.89	25.48
数学	100	40.36	35.33	50	20.55	19.98
英語	120	85.00	84.51	50	32.92	31.92
合計	320	173.77	172.20	150	79.37	77.38

本年度の一般入試受験者平均点は、男子が数学 5.03 点女子を上回り、女子が国語 3.96 点の差で男子を上回りました。英語はほとんど差がありませんでした。推薦入試では、3 教科とも男子が女子を上回りました。(2026 年度推薦入試適性検査 男女得点差 国語 0.41 点、数学 0.57 点、英語 1 点)

(7) 一般入試合計点と 3 科目の相関関係

教科別受験者・合格者平均点とその差の男女比較

		国語	数学	英語	合計
配点		100	100	120	320
男子	受験者平均	48.40	40.36	85.00	173.77
	合格者平均	52.24	52.07	94.04	198.35
	差	3.84	11.71	9.04	24.58
女子	受験者平均	52.36	35.33	84.51	172.20
	合格者平均	58.89	48.70	94.71	202.30
	差	6.53	13.37	10.20	30.10
男女合計	受験者平均	50.04	38.28	84.80	173.12
	合格者平均	54.41	50.97	94.26	199.64
	差	4.37	12.69	9.46	26.52

教科別で見ると、「合格者平均点－受験者平均点」の差が大きい状況が続いているのが数学です。2021 年度に差が急拡大した英語は、2025 年度に約 12 点の差となりましたが、2026 年度は約 9 点の差となりました。

①「英語」「数学」ができないと合格は難しい。

②「国語」は受験者平均点以上で合格の可能性が安定する。

という 2 点が明治高等学校合格へのポイントとしてあげられます。

【2】2027年度高校入試の出題方針

本校の入学試験は国語・英語・数学の順番に行われ、基礎知識に加え、思考力・表現力を見る問題が数多く出題されます。また、3教科それぞれの出題方針は一般入試（学力検査）も推薦入試（適性検査）も同じです。学力検査の問題量を減らして難易度を易しくしたものが適性検査だとお考えください。また、適性検査は解答時間が短いこともあり、一般入試（学力検査）より基礎的な出題が多くなる教科もあります。

〔国 語〕

国語では、例年、説明文や随筆を中心にした長文問題を出題し、読解力や表現力を見る作問を行っています。速読速解の力が求められますので、文章に読み慣れておく必要があります。また、要旨や主題などを記述の形式で答えてもらうこともありますので、表現力も見ています。文中のキーワードに注意して、的確にまとめる力が求められます。字数制限のある問題では、句読点も字数に含み、制限字数の8割以上は書くようにして下さい。問題文をよく読み、「何をきかれているのか」をよく考えて答えてください。部分点も見えますが、ピントがずれていると得点にはなりません。また、記述問題中の誤字や脱字にも十分気をつけて下さい。句点のないものも減点対象になります。漢字は例年10問出題され、1問2点なので、意外と得点の差がついています。また、漢字の問題では画数やバランスの乱れがあった場合は不正解になりますので、ていねいに書いてください。語句や文法に関する知識問題も例年出題しています。日頃から辞書をこまめに使う習慣を身につけておいてください。

〔英 語〕

英語では運用力を見る問題を中心に出题しています。問題数が多いので、手際よく解答することが必要です。読解問題は例年40点ほど出題し、少し長めの文章を読んでもらいます。英文を速く正確に理解する力や文脈から読み取る力を見ています。リスニング問題は35点程度出題します。2016年度から「聞く」をより重視した出題としています。全体的な出題レベルは英語検定の準2級くらいです。また、文法や語法の問題では正確な知識が求められます。単語や発音の問題では基礎的な語彙力が必要となります。本校では英語検定やTOEICも指導の目標にしているため、入試問題もそれらを意識した作問となっています。本校の過去問題集だけでなく、できるだけ英語検定の問題にも取り組んでください。その場合、英語検定の準2級の問題が7割程度できる力を身につけることが望ましいと考えています。

〔数 学〕

数学では受験生の計算力だけでなく、思考力を見る作問を行っています。①は答えのみを記入する問題で、例年5つ程度の小問が出題されています。1つの小問の配点（7～8点）が高く、合否を分ける問題になっていますので、慎重に解いてください。②から⑤までの問題は、必ず「式や説明」を書いてください。これは受験生の考え方を見るためです。答えが不正解でも途中式が正しければ、部分点が出ることもあります。総合問題が中心となっていますが、各問題にはレベルに多少差があります。問題数が少ない分、全体的に1問あたりの配点がたいへん高くなっています。1問1問を丁寧に解いてください。難易度が高い問題に時間をかけ過ぎず、解ける問題から手をつけるようにして下さい。また、計算ミスや勘違いによるミスで合否を分けることも多々ありますので、確かめの時間を残して

おくことを推奨します。

【推薦入試】

一般入試の出題方針と変わりありません。ただし、試験時間が短いこともあり、一般入試より基礎的な出題が多くなる教科もあります。

【3】各教科の勉強方法

新入生アンケートによる「合格の秘訣となった勉強方法」を紹介します。別冊の「Meiji Data Box 2026」のP6～P7をご参照ください。

【4】合否判定と推薦出願基準について

(1) 合否判定

ア 一般入試

3教科の合計点で判定します。教科ごとの基準点はありません。合格最低点は例年5～6割となりますが、2026年度入試では320点満点で男子171点（約53.4%）、女子180点（約56.3%）でした。また、推薦入試からの再受験者はボーダーラインにおいて5点の優遇措置が受けられます。推薦入試からの再受験者は50名でした。追加合格者を出す場合は、例年、入学手続日の夕方以降（状況によっては都立高校合格発表日翌日以降）に電話で連絡をします。2026年度は、女子6名が追加合格となりました（2025年度は男子9名、女子6名）。

イ 推薦入試

適性検査(国語、数学、英語)と面接の結果から総合的に判定します。適性検査は各教科50点満点、時間は各教科とも40分です。面接は受験生1名に対し面接官2名の面接を2回行います。なお出願の際の5段階評定、課外活動実績等はあくまで出願資格であり、合否には影響しません。合否判定は次のように行います。

①面接評価が特に悪い受験生を除外します。

②面接評価の高い順に序列化し、適正検査の結果を加味しながら、男女別に実募集人数のおよそ40%までを合格者とします。

③「②」での合格者を除き、適性検査の成績順に序列化し、男女別に実募集人数のおよそ60%までを合格者とします。

(2) 2027年度推薦入試出願資格 ※詳しくは2027年度入学試験要項をご覧ください。

次の4つの要件を全て満たし、在学する中学校長の推薦を受けた者。

ア 2027年3月に中学校卒業見込みの者、または中等教育学校の前期課程を修了する見込みの者で、原則として保護者のもとから通学できる者。

イ 明治高等学校への入学を第一志望とし、入学後の勉学に明確な目的と熱意を持ち、入学後他の生徒の模範となり得る者で、合格した場合は、本校への入学を確約できる者。

ウ 中学校入学後の欠席日数の合計が、15日以内であること。

エ 中学校在学中、A. 学業 又はB. 課外活動(学外活動を含む)のいずれかの分野で以下の条件を満たした者。(AかBの選択)

但し、５段階評定は、各都道府県の「高等学校等入学者選抜実施要綱」に基づいて中学校長が作成した調査書の評定もしくは、その５段階評定への換算値とする。

A. 学業

中学校第３学年５段階評定の９教科の合計が３８以上であり、そのうち５教科(国語・社会・数学・理科・英語)の合計が２２以上の者で、かつ、９教科５段階評定に２以下が無い者。

B. 課外活動(学外活動を含む)

中学校第３学年５段階評定の９教科の合計が３６以上であり、そのうち５教科(国語・社会・数学・理科・英語)の合計が２０以上であり、かつ、９教科の５段階評定に２以下が無い者で、次に挙げる生徒会・運動・文化などの課外活動(学外活動を含む)のいずれかの分野において、特に顕著な活躍をした者。

－課外活動(学外活動)－

- ① 生徒会活動関係 生徒会の全会員投票により選出された、生徒会長（１期以上）もしくは副会長等の次席の生徒会役員（２期以上）を務めた者。
- ② 運動関係 都道府県大会において正選手としてベスト８入賞、または全国・関東レベルの大会に正選手として出場した者。
- ③ 文化関係 都道府県レベル以上のコンクールやコンテスト等において入賞以上の成績を上げた者。

※B. 課外活動(学外活動を含む)で出願される場合には、事前の資格審査を電話にて必ず受けてください。詳しくは2027年度入学試験要項をご覧ください。

【５】2027年度高校入試のポイント

(１)募集人数

明治中学校からは約174名が内部進学予定です。実募集人数は一般入試約60名、推薦入試約40名(指定校推薦を含む)です。指定校推薦は本校近隣の調布市、三鷹市の公立中学校を対象に募集しています。指定校推薦については、所属する中学校長にお尋ねください。

(２)募集方法

Web出願システム(miraicompass)による出願です。

(３)男女比調整

男女比調整については、推薦入試では指定校を除き男女ほぼ１：１になるように、また、一般入試についても、入学者の男女比が１：１になるように合格者を発表します。

(４)合格発表(一般入試)

一般入試の合格発表予定時刻は入試当日の22時です。ただし、合否判定が終了次第発表します。(本校ホームページで行います。)なお、入学手続きを終了した段階で手続き者が予定人数に達しなかった場合、追加合格を出す場合があります。その場合は電話で連絡いたします。

(5) 合格発表(推薦入試)

推薦入試の合格発表は1月23日 9時に本校ホームページで行います(予定)。入学手続きは2027年1月26日に行い、延納や入学辞退はできません。

(6) 特待生合格(一般入試)

一般入試において入試成績上位者(上位50位以内)については、特待生合格として発表します。入学後に選考のうえ6名程度に入学金相当額を給付します。手続きの詳細は、入学手続き時に対象者にお知らせします。

(7) 優遇制度(一般入試)

一般入試において推薦入試受験者を対象に、ボーダーラインにおいて5点の優遇措置が受けられます。

(8) 延納制度(一般入試)

一般入試では入学金以外の諸費用については延納ができます。延納期限は併願校の最終合格発表日の翌日までとなっています。延納を希望される方は、入学手続き時に延納の申請を行ってください。

第7章 本校をもっと知っていただくために ― 将来と一緒に考える学校

お子さまの大事な6年間、3年間で過ごす学校ですから、不本意入学やミスマッチを避け、お子さまに合った学校をじっくり選んでいただきたいと思います。そして、明治を知って、見て、感じて、好きになっていただき、本校を受験してもらうことを願っています。

【1】こんなご心配はありませんか？

(1) 模試の偏差値と入学後の成績の関係

模擬試験の偏差値があまり高くなく、合格しても学校の勉強についていけないのではと心配される方がいます。追跡調査などのデータを見ると、偏差値と入学後の成績はあまり関係がありません。本校の入学試験で合格点に達したということは、本校での勉強に十分ついていけるという証しです。中学生、高校生の学習方法に切り替え、まじめにこつこつ勉強すれば、成績が伸びていくことは実証されています。

(2) 入学前の英語教育は必要？ ★中学のみ

「明治中学校では英語教育に力を入れているようだが、小学校では英語の勉強をほとんどしていない」と心配される方もいらっしゃいます。明治中学校では、週7コマの授業で、入学後に基礎からしっかりと教育します。しかしながら、入学後はレベルの高い教科書を使って、週7回のペースで進んでいきますから、しっかりと勉強に取り組んでください。当然ながら、入学前の取り組みよりも、入学後の取り組みのほうが圧倒的に重要です。

(3) 万が一、経済的困難になったら

入学後の家庭の経済状況の急変などが生じた場合に備え、本校では奨学金制度・修学支援奨学金が用意されています。修学支援奨学金には第1種と第2種があり、第1種に認定されると授業料相当分が、第2種の場合は授業料の1/2相当額が給付されます。奨学金は、いずれもご家庭の経済状態、本人の成績・人物を考慮して決定されますが、それらが給付型(返還義務がない)である点が本校の奨学金制度の大きな特長です。

参考資料 本校の主な奨学金制度

(1) 修学支援奨学金 中高共通

目 的 本校へ入学後、家計急変等の経済的な理由によって修学が困難になった者に対し、修学上の便宜を図ることを目的とした奨学金制度。

給付額 第1種：授業料相当額

第2種：授業料1/2相当額

(2) 海外語学研修奨学金 中高共通

目 的 本校主催の海外語学研修(任意参加)参加者のうち、成績・人物ともに優秀な者に対し、参加費用の負担を軽減するとともに、課外の語学教育活動への参加を奨励し、語学力の向上に寄与することを目的とした奨学金制度。

給付額 第1種：20万円

第2種：10万円

(3) 特待生奨学金 中高共通

目 的 年間を通じて成績・人物ともに優秀であった者および学業以外の分野において特に顕著な功績を挙げ、本校の名声を著しく高めた者を賞し、さらなる向上を奨励することを目的とした奨学金制度。

給付額 12万円

(4) 高等学校入学時特待生奨学金 高等学校のみ

目 的 高等学校入学試験（高校一般入試）において、特に優秀な成績を収めた者に対して、学費の負担を軽減するとともに、学業を奨励することを目的とした奨学金制度。

給付額 入学金相当額



<公式 SNS も是非ご覧ください>

Instagram (ユーザー名:@meidai_meiji)



MEIDAI_MEIJI

学校行事の準備状況、班部活動の練習風景、学校生活における日常風景など、本校の魅力をお伝えいたします！

X(ユーザー名:@Meidai_meiji)



学校説明会や受験情報をはじめ、学校HPに更新される情報をリアルタイムにお届けします！

明治大学付属明治高等学校・明治中学校

〒182-0033 東京都調布市富士見町 4-23-25

TEL 042-444-9100(代表)

FAX 042-498-7800

https://www.meiji.ac.jp/ko_chu/